



道徳だより

2025.12.17号
みよし市立緑丘小学校



3年生「いちばんうれしいこと」(内容項目B 思いやり)

ねらい

思いやりの心は相手の気持ちを自分のことのように考えようとするところから生まれていることや、その喜びに気付き、自分も思いやりの心を發揮していこうとする心情を育てる。

授業の様子

めあてを「思いやりの心とは、どんな心のことかな」として子どもたちに提示しました。思いやりの心で大切なことは「相手のことをいかに大切にできるか」です。「相手」のことを思って自分でできることをしていても、周りの人は見てくれているのかを気にしたり、見返りを求めてしまったり、つい「自分」のことを考えてしまう弱さがあります。本当の思いやりは、ひたすら「相手」に心を寄せ、相手のことを大切に考えて行うことであり、自己犠牲ではなく、「相手」をかけがえのない存在として思うことによってなされるものです。その考えに迫れるように授業を行いました。

教材名「いちばんうれしいこと」の概要

アンパンマンの作者である、やなせたかしさんの言葉で始まります。【人間が一番うれしいことはなんだろう。長い間、僕は考えてきました。そして結局、人が一番うれしいのは、人を喜ばせることだということが分かりました。実に単純なことです。】どうしてそのように考えるようになったのでしょうか。やなせさんが東京の大学を卒業して仕事を始めたころに戦争が始まりました。日本では「この戦争は正義のための戦いだ」と言わっていました。やがて戦争が終わり、日本は焼け野原になり、毎日食べていくことが大変な時代になりました。やなせさんは、【人間にとって一番つらいのはひもじいことだ。戦争の時も何よりきつかったのは、飢えることだ。大事なのは決して大げさなことではなく、もし目の前にお腹をすかせている人がいれば、その人に一切のパンをあげることだ。相手を思いやる気持ちが、一番大切な】と考えていました。この思いから生まれたのが、今から40年以上前に登場した最初のアンパンマンです。最初のアンパンマンのマントは、つぎはぎだらけでボロボロです。自分のマントを新しくする時間を惜しんで、お腹をすかせている人のところへ飛んで行き、自分の顔を食べさせます。やなせさんのどの作品にも相手を思いやる人が描かれています。それを読んでもらい、多くの人に喜んでもらうことがやなせさんの喜びだったのです。

まず、事前に取ったアンケートで「あなたにとって一番うれしいことは」と聞いたところほぼ全員が「自分に何かしてもらったとき」と答えていることを紹介しました。今日はやなせさんの思いについて考えることを伝え、範読しました。始めに「戦争を終え、お腹を空かせているやなせさんはどんなことに気付いたのか」聞くと「一番つらいのは飢えること」「逆に食べられることが一番うれしい」「戦争は正義ではない」と答えていました。次に「つぎはぎだらけのマントに込められた思い」について聞くと「マントを直すよりも人を助けたい」「人を助けることを優先したい」「それくらい戦争が大変であること」と答えていました。やなせさんが残した「人を喜ばせることが一番うれしいとはどんな思いか」聞くと「人の笑顔が見たい」「人が喜んでいると自分もうれしい」「相手がつらいと自分もつらい」と答えていました。子どもたちは、やなせさんの思いやアンパンマンの姿から「思いやりの心」について一生懸命に考え、少し近付けたように感じました。これから的生活の中で「自分」ばかり優先にするのではなく、「相手」のことを少しでも考えている姿があれば認めていきたいと考えています。

